



【海の状況 (2012/12/16~2013/1/15)】

- ・神子表面水温……期間を通して概ね平年並み（過去30年平均より±0.5℃程度）で推移していた（図1）。
- ・米ノ表面水温……期間を通して概ねかなり低め（過去15年平均より1.0~1.5℃程度低め）で推移していた（図2）。

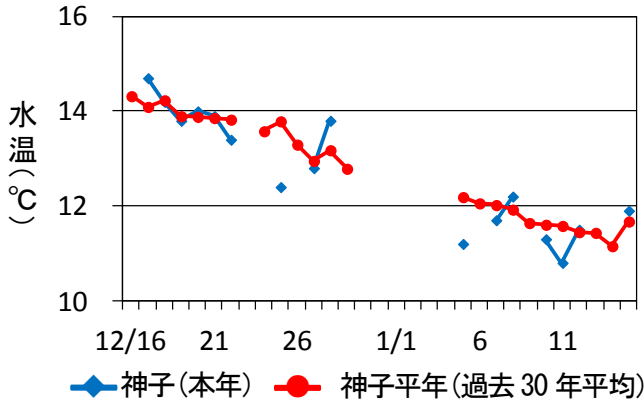


図 1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

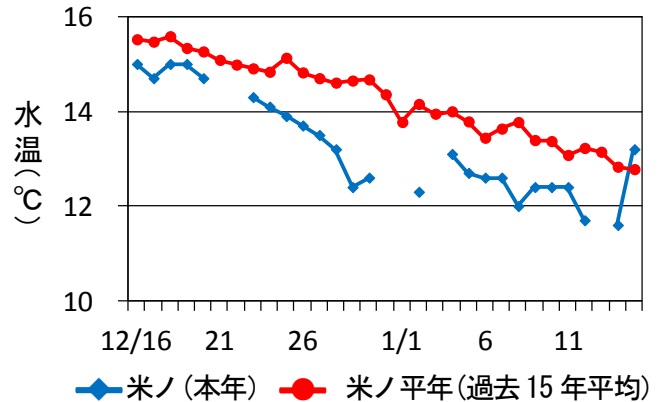


図 2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

- ・100m深水温……2013年1月上旬の若狭湾沿岸域は昨年同期と同様に、14℃台の水域が広がっていた（図3）。

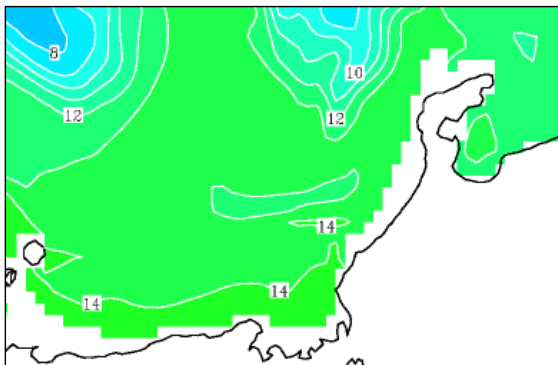


図 3. 2013 年 1 月上旬の 100m 深水温

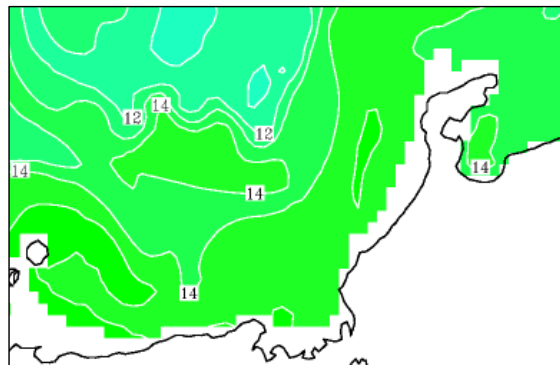
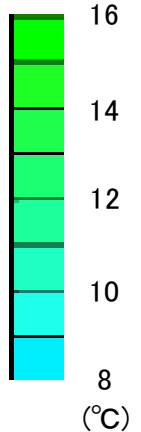


図 4. 2012 年 1 月上旬の 100m 深水温



資料：日本海区水産研究所の日本海海況予測システム（JADE）による再現データ

寒ブリ漁模様について

今期の寒ブリの漁獲状況についてお知らせします。

隣の石川県や富山県などでは12月の大型ブリの漁獲量は昨年同期を上回ったようですが、本県における2012年12月の定置網漁業による大型ブリの漁獲量は約5tで、前年同期（約41t）及び平年同期（約15t）を下回りました。

なお、1月に入ってから一部の定置網でまとまって漁獲されるようになり、1月の定置網による漁獲量は約41t（1月20日時点での集計値、一部未集計）と、すでに前年を上回る状況となっています。

（宮田克士）



〔県内の漁模様：2012年のまとめ〕

2012年の総漁獲量は11,517t（対前年911t減）で、定置網は5,510t（823t減）、底びき網は4,116t（210t増）、釣り・その他の漁法は1,891t（299t減）となった。

〔12月の漁模様〕

総漁獲量…2012年12月の県内の総漁獲量は906tで、2011年同月を96t上回った。

定置網…漁獲量は587tで、前年同月を123t上回った。そのうちカツオ類、ブリ類（ハマチ、ツバス銘柄）、ソデイカ等は前年同月を上回った。一方、アジ類、ブリ類（ブリ銘柄）、サワラ等は前年同月を下回った。

底びき網…漁獲量は252tで、前年同月を21t上回った。そのうちアカガレイ、ズワイガニ（オス・メス）等は前年同月を上回った。一方、キダイ等は前年同月を下回った。

釣り・その他…漁獲量は68tで、前年同月を49t下回った。そのうちスルメイカ、ケンサキイカ等は前年同月を下回った。一方、アマダイ、ヒラメ、ソデイカ等は前年同月を上回った。

(単位：kg)

定置網			
魚種	2012年	2011年	02-11平均
アジ類	31,755	55,591	60,973
(アジ)	25,196	33,292	21,468
(小アジ)	6,359	21,711	37,011
(その他のアジ)	201	589	2,494
カツオ類	22,192	15,850	19,567
ブリ類	270,000	108,944	77,581
(ブリ)	4,709	41,078	15,429
(ワラサ)	1,634	1,223	883
(ハマチ)	38,708	17,409	17,407
(ツバス)	224,950	49,233	43,861
ヒラマサ	11,637	2,961	7,953
サワラ	134,081	157,738	80,238
マダイ	8,009	7,756	4,026
スズキ	12,472	14,816	10,476
ヒラメ	3,394	2,270	2,474
カマス	4,237	11,560	8,431
アオリイカ	4,189	9,112	8,676
ケンサキイカ	1,106	10,588	1,671
ソデイカ	28,078	25,301	15,702
合計	586,581	463,791	347,804

底びき網のつづき			
魚種	2012年	2011年	02-11平均
ズワイガニ〔オス〕	48,509	41,093	45,584
ズワイガニ〔メス〕	30,279	18,585	25,299
アカエビ	3,525	2,651	10,607
合計	251,595	230,168	282,515

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2012年	2011年	02-11平均
ブリ類	3,886	3,464	17,306
(ブリ)	606	92	41
(ワラサ)	208	214	216
(ハマチ)	3,050	23	12,276
(ツバス)	21	3,134	4,773
マダイ	1,648	1,976	3,641
キダイ	5,141	4,111	3,976
アマダイ	9,223	6,097	9,175
スズキ	967	610	622
ヒラメ	3,064	1,257	1,834
その他カレイ	532	153	183
メバル類	980	933	1,138
スルメイカ	6	47,181	158,276
アオリイカ	544	1,193	1,442
ケンサキイカ	574	18,358	2,733
ソデイカ	12,983	4,323	12,390
タコ類	7,304	7,996	8,803
合計	67,529	116,182	259,384

底びき網			
魚種	2012年	2011年	02-11平均
マダイ	2,579	1,812	2,506
チダイ	1,487	805	1,425
キダイ	6,427	11,335	10,804
ヒラメ	1,999	2,417	1,910
アカガレイ	83,982	79,726	88,608
その他カレイ	13,431	17,506	15,510
アナゴ	3,265	3,144	4,418
ニギス	4,679	940	1,118
タコ類	5,939	5,901	5,371

総計	2012年	2011年	02-11平均
	905,705	810,141	889,702

※（ ）は銘柄別の漁獲量
 ※その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類
 ※その他エビはアカエビ以外のエビ類

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：12月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：12月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：12月中旬～翌年1月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：12月中旬～翌年1月上旬の1統あたりの漁獲量。)

石川県……定置網……ブリ（フクラギ銘柄）0.9t、ブリ（ブリ銘柄）13.5t、マサバ4.2t、ソウダガツオ3.8t、マアジ2.4t。

京都府……定置網……ブリ（ツバス銘柄主体）7.4t、ブリ（ブリ銘柄）3.1t、サゴシ3.8t、サワラ0.4t、ソデイカ1.2t、アカカマス1.0t、ヒラマサ0.8t。

兵庫県……定置網……アジ類246kg、ツバス196kg、スズキ14kg、ソデイカ13kg。

鳥取県……まき網……マサバ39.3t、マアジ10.4t、ブリ類2.3t。

(宮田克士)

自動給餌機を使用したトラフグの飼育

栽培漁業センターでは、全長7cmの種苗を7万尾生産し5月の連休明けから5月下旬にかけて県内の養殖漁業者の皆さんに出荷しています。この出荷が終わると一息つけるのですが、全てのトラフグ種苗が当センターからいなくなるわけではありません。将来の親魚にするために一部の種苗を飼育し続けているのです。この親魚養成にはなるべく手間をかけたくないので自動給餌機を使用して給餌するようにしています。今回はその飼育事例について紹介します。

6月20日にトラフグの種苗生産に使用している50m³の水槽(7.5×5×1.7m)に500尾の種苗(体長8cm、体重12g)を入れて飼育を開始しました。餌は日本配合飼料のトラフグ用ドライペレットで、給餌量は魚体重の2~3%を目安に摂餌状況を見ながら増減させました。また、1水槽当たり2台の自動給餌機を設置し、1日分の給餌量を7時、8時、10時、12時、14時、16時の6回に分けて給餌しました。このように自動給餌機を使用する利点は、1日の給餌量を数回に分けて給餌できること、職員が出勤していない休日でも給餌できることです。

さて、飼育した稚魚の成長ですが、9月11日には平均体長17cm、平均体重160gになり、12月17日には平均体長26cm、平均体重519gになっていました。ちなみに、海面生け簀でトラフグを養殖した場合、12月時点の体重はおおよそ400gと聞いています。また、生残率は80%程度でした。

このように自動給餌機を使用したトラフグの飼育では、省力化を図ることが可能ならぬに十分な成長・生残も見込めると考えています。そこで、特に民宿や釣り船、他漁業と兼業で若狭フグ養殖をされている皆さんは、自動給餌機の導入を検討してみてはいかがでしょうか。

(上奥秀樹)

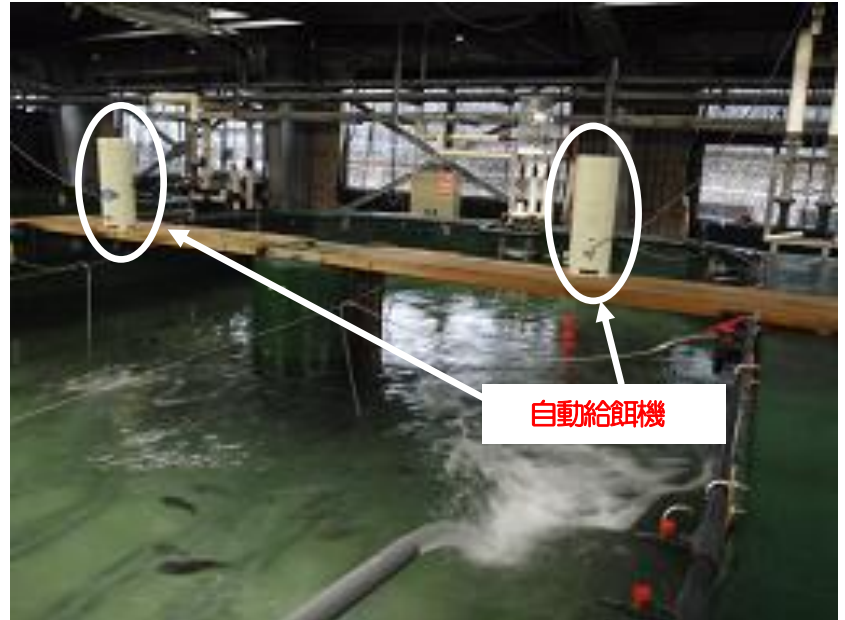


図1. 自動給餌機を設置した水槽(50 m³)

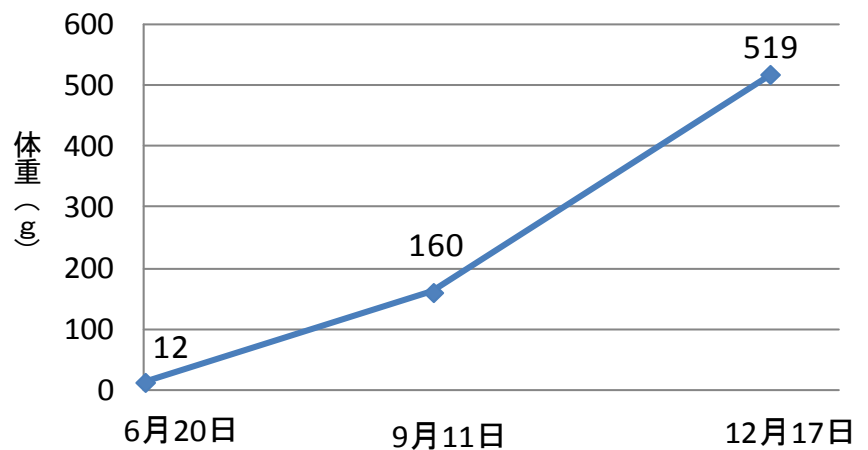


図2. 体重の推移



図3. 体重550gに成長したトラフグ (H25.1.16撮影)

若狭湾における海洋観測システムの開発 ～「福井県版海の天気予報」の開発に向けて～

水産試験場では、今年度から農林水産技術会議「新たな農林水産政策を推進する技術開発事業」の委託を受けて、急潮発生要因の解明および「福井県版海の天気予報」の開発に取り組んでいます。その一環として、定置網または底曳網漁船など沿岸漁業を活用した若狭湾を包括的にモニタリングする海洋観測システムの開発を進めています。今回はその内容をご紹介します。

底曳網漁船を活用した観測

福井県には78隻の底曳網漁船が在籍しており、若狭湾から遠くは大和堆まで操業しています。このうち、4隻の底曳網漁船の方々に潮流計データロガーと水深水温計を取付けて操業を行って頂いています(図1)。潮流計データロガーは、漁船に搭載されている潮流計のデータを位置情報とともに記録し、水産試験場に自動送信します。また、水深水温計は水深と水温を一定間隔で記録する機器で、網に取付けて操業して頂いています。こうすることで、航走した海域の流れ、網を降ろしたところの水温鉛直分布が分かります。

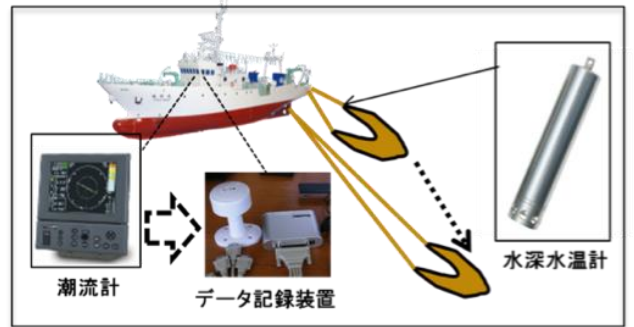


図1. 底曳網漁船観測

リアルタイムブイを用いた観測

若狭湾の沖合および沿岸の海況は対馬暖流に大きく影響を受けており、注目すべき点は以下の3つです(図2)。

1. 対馬暖流本流(第一分枝)
2. 還流(渦を巻いたような流れ)
3. 経ヶ岬からの入り込み

これらは刻一刻と変化し、時には急潮を発生させる要因となります。この3つの現象を日々モニタリングするため、越前岬沖と高浜町地先にリアルタイムブイを設置します。このブイには流速計や波高計などの機器が取付けられており、観測したデータを水産試験場に自動送信します。このリアルタイムブイから送られてくる「流れ」、「波高」、「表面水温」のデータは、皆様のパソコン、携帯電話で閲覧できるようにする予定です。

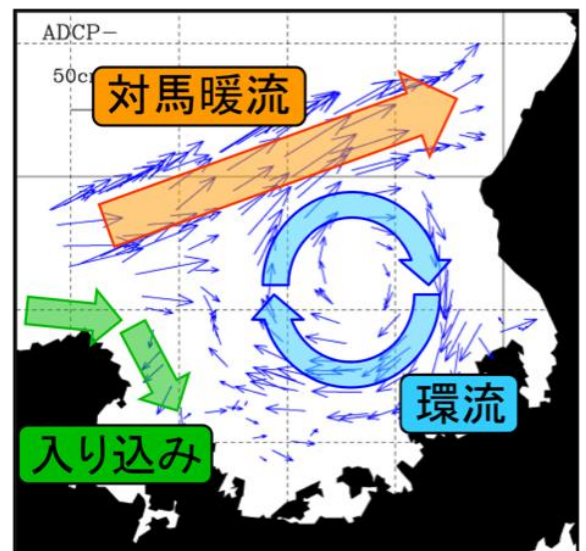


図2. 若狭湾の流れのイメージ

この底曳網漁船やリアルタイムブイを使用した観測に加え、調査船での海洋観測や定置網に設置して頂いている記録式の観測機器などを総合して若狭湾すべてをモニタリングする海洋観測システムとしたいと考えています。こうすることで、水産試験場単独では決して集めることができない広範囲で高密度なデータを集めることができ、海況の短期予報が可能になると期待しています。今後とも、ご協力よろしくお願ひ致します。

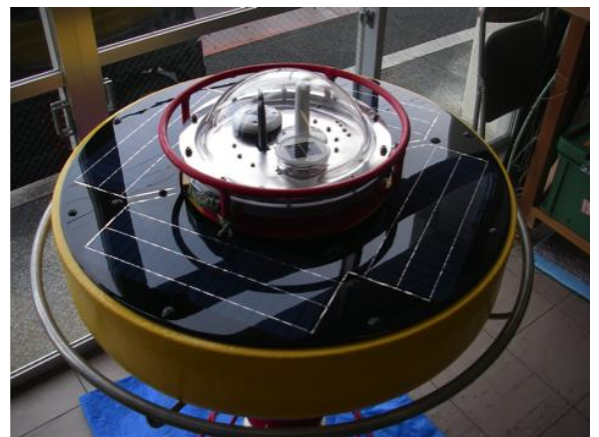


図3. リアルタイムブイ

(鮎川航太)